

# 慰霊友好親善事業への参加者からの投稿

今年度の「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」の参加者は二十七名(予定)となっております。参加者から投稿がありましたので、掲載します。

なお、この事業に未参加の遺児の方は、出来るだけ早く参加してください。

・参加地域名 パラオ諸島  
・期 間 平成二十二年十月十六日から二十三日(七泊八日)

## 念願の慰霊の旅 平和な島に激戦を偲ぶ

呉市遺族連合会 西茂 俊明 隊司令跡で慰霊をさせて戴きました。

今回、日本遺族会の標記訪問団に参加し、父親の戦死したペリリュー島を訪れる事が出来たことは、肩の荷が下りる／＼心が晴れるなどの筆舌で言い表せないほつとした心の安らぎを感じました。

ペリリュー島へ慰霊に行きたい思いは、父親の戦死したと同じ三十五歳になった時頃からの願ひでありました。定年退職して若干の時間的余裕が出来た時期に良いタイミングで訪問団に参加できて、慰霊が出来た事はありがたいことだと思っています。

慰霊は、パラオ本島から始まり、アンガウル島、ペリリュー島と巡礼しました。

私は、ペリリュー島の海軍航空

また、西太平洋戦没者の碑では、厳かに慰霊が執り行われ、式には省長も参列されて有意義なものとなりました。

ペリリュー島は、聞く所によりますと結果的には戦略的意義がなくなつたために、硫黄島を凌ぐ激戦であつたにも係わらず注目度が低いことは残念に思います。

島内では、旧日本軍の軽戦車や零戦の残骸や洞窟跡に二〇〇mm艦砲に不発弾が当たつた状態なのを見て当時の激戦を偲びました。

ペリリュー島を含むパラオ島は日本語も現地語化していて穏やかな人柄に加えて、なおみさん、かみいちゃんなどの日本名を持った人もいて親日的で親しみを感

じました。日本統治時代が良かったものと思います。

慰霊の間に学校を訪問出来たことは、心の和む一時期で、子供たちの無邪気な、少しはにかむ様子は微笑ましく、どちらかと言えば重苦しい気持ちの中で一服の清涼剤になりました。また、友好の一助になったのだと思います。

今後も継続して欲しいと思います。贈り物としては、一般的な文房具に加えて、子供の喜ぶ玩具類などは各人が考慮する必要もあるのではと考えます。そして、各人が子供一人一人に手渡しで渡すほうがより友好親善に血の通つたものになるのではと感じました。

最終日には、グアム島戦没者平和慰霊塔への献花で慰霊の旅を終えました。

その他の感想としては、JICAから若い女性が国立病院への検査技師として、ペリリュー島小学校の先生として派遣され、元気に頑張っている姿に健気な、やまとなでしこ此処にありと頼もしく実感しました。

感想文の最後になります。厚生労働省、日本遺族会、広島県遺

族会、呉市遺族連合会に感謝申し上げて終わりといたします。有難う御座いました。

追伸

現地では、日本大使館も一目を置く歴史的知識も豊富な菊池正雄さんに案内頂き感謝です。

拙句

『密林に踏み込み祈る  
英霊に』

『慰霊の間心和む  
子供の眼』

『父の霊背負い  
ペリリュー後にする』

小酒鬼

